

産業の発達と村の自治

1 / 1

縄文

弥生

古墳

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

安土桃山

今日の問い

室町時代、産業はどのように発達し、村の人々はどのように力を合わせたのだろう。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 農業と商業の発達

産業の発達

二毛作

同じ田畑で米と麦などを1年に2回つくる農法。室町時代には各地に広がった。

室町時代には農業の技術がさらに進んだ。同じ田畑で米と麦を1年に2回つくる**二毛作**が各地に広がり、牛や馬を使った耕作や、草木灰・たい肥などの肥料の利用も進んだ。水車などで用水の整備も進み、収穫量は大きく増えていった。

定期市

月に6回ほど開かれるようになった、各地の市。

商業も発達し、月に6回ほど開かれる**定期市**が各地に広がった。品物を馬で運ぶ**馬借**が活躍し、取引には輸入された銅銭の**明銭**が使われた。商人や手工業者は**座**という組合をつくって営業を独占し、質をとってお金を貸す**土倉**も現れた。

座

商人や手工業者がつくった同業者の組合。公家や寺社の保護を受けた。

2 村の自治と一揆

村と一揆

惣

農民が自分たちでつくった村の自治組織。惣村ともいう。

村では、農民たちが**惣**(惣村)という自治組織をつくり、**寄合**という話し合いの場で、用水の使い方や山林の利用、村のおきてなどを自分たちで決めた。農民たちは団結して、年貢の軽減や借金の帳消し(**徳政**)を求めて立ち上がることもあった。これを**土一揆**という。

寄合

惣の話し合いの場。おきてや用水の使い方などを決めた。

1428年には、近江(滋賀県)の馬借などが中心となって**正長の土一揆**が起こった。1485年には山城(京都府南部)で**山城国一揆**、1488年には加賀(石川県)で浄土真宗(一向宗)の信徒らによる**加賀の一向一揆**が起こった。山城では守護大名の軍を追い出し、加賀では守護を倒して、自分たちで国を治めた。

土一揆

農民などが団結して、借金の帳消しなどを求めた一揆。

年	一揆	できごと
1428	正長の土一揆	近江の馬借などが徳政を求めて立ち上がる
1485	山城国一揆	武士と農民が守護大名の軍を追い出し8年間自治
1488	加賀の一向一揆	一向宗の信徒らが守護を倒し約100年間自治

問いへの答え

室町時代には二毛作が広がり、肥料や水車の利用も進んで収穫量が増えた。商業も発達して定期市が開かれ、商人や手工業者は座をつくった。村では農民が惣をつくり、寄合でおきてなどを決めて自治を行った。さらに土一揆や山城国一揆、加賀の一向一揆のように、団結して立ち上がり、自分たちで国を治めることもあった。

次は ノート で、下線に語句を書きながら確かめよう →

